

R 5 第 1 学年 技術・家庭科（技術分野）年間指導計画年間 35 時間

月	指導区分と時間配分	指 導 目 標	指 導 内 容	評 価 の 規 準
4	4 時 間	1. 技術と生活	①日常生活の身近にある製作品の観察 ②技術と生活とのかかわり ③材料の特徴(鋸・鋸)・性質・構造	K:製作品に関心を持ち、身の回りの材料の特徴を進んで学習する態度がみられる。 G:製作品の仕組みや構造を調べることができる。 C:材料の特徴や性質等を説明できる。
		2. 製作品の設計 ・材料 ・機能と構造 ・構想図	①材料の特徴 ②設計要素 ③丈夫な構造・補強 ④キャビネット図・等角図・三角法 組み立て図・部品図・展開図	K:進んで構想図や部品図・組立て図をかこうとする態度がみられる。 S:使用目的や条件・丈夫な構造などを考え、構想図に工夫がみられる。 G:製作品の構想図をキャビネット図や等角図で表現ができる。 G:第三角法で部品図や組立て図をかきことができる。 C:製作品の組み立て図から、必要な部品図をかきことができる。
		3. 製作品の製作準備と製作	7. 製作工程と作業工程を理解させる。製作工程と作業工程	K:進んで作業計画に取り組もうとしている。 C:製作工程に従って作業項目を説明できる。
7	部 品 取 り 削 り	8. 素材に応じたけがき・材料取りの方法を理解させる。	材料へのけがきの方法	K:進んで材料にけがきをしている態度がみられる。 G:正確な寸法で線が引ける。 C:基準面や、けがきの仕方を説明できる。
		9. 素材に応じた切断工具・道具の仕組みと切断・切削の原理を理解させ、正しい取り扱い方が出来るようにする。	①切断工具・道具の構造と使い方	K:切断作業に興味・関心を示し進んで作業に取り組んでいる。 S:材料の違いに応じて切断方法が的確にできる。 C:切断工具・道具の構造を理解し、使い方を説明できる。
8	部 品	10. 工作機械の正しい使用方法を理解させ切断及び切削などができるようにす	②切削工具・道具の構造と使い方	S:進んで加工法に応じた手工具や工作機械を選び作業の効率や短縮に取り

9	時間	加工	る。	③工作機械の構造と安全な使い方	組み正確に仕上げようとしている。 G:材料の性質に応じて正確に削り作業ができる。 C:工作機械の構造を理解し、使い方を説明できる。
		工	11. 複数の加工方法の中から、個々の技能に応じた加工法を選択させ、正確な仕上げができるようにする。	④加工法を選択	
		り			
10	時間	組み	12. 仮組み立てをしながら組み立ての順序・補修の方法を理解させる。	①仮組み立てと補修 ②組み立て工具・道具の使い方	K:進んで仮組立てをする態度がみられる。 G:直角定規等を使い部品の点検や、必要箇所を道具等で補修することができる。
		立	13. 接合方法・補強金具等の正しい使い方を知らせ、組み立てが正確にできるようにする。	③接合工具や道具・補強金具等の正しい使い方	K:点検・補修のあと、進んで組立てをする態度がみられる。 S:目的や条件に応じた組立てができる。
		て			C:接合の構造を理解し、使用する工具・道具の使い方を説明できる。
11	時間	合			
		仕	14. 素材に応じた仕上げおよび素地磨き等の方法を知らせる。	①作品表面の仕上がりをよくするための素地磨きの方法	K:進んで表面処理をし、作品を仕上げようとしている態度がみられる。 S:使用目的や使用条件に合った研磨等を効率よく行う工夫がみられる。
		上	15. 作業室内の整理・換気について考えさせる。	②使用目的・条件に応じた表面の処理 ③磨き粉の換気と作業の安全	
12	時間	仕			
		上			
		げ			
1	時間	反省	16. 製作品の総合評価・学習内容の反省をさせる。	総合評価・反省	K:学習内容を反省して、進んで評価をし、次の作品製作に意欲を示している。 C:作品の完成するまでの工程をまとめて説明できる。
		1	17. 材料の利用価値と技術が生活に果たしている役割を考えさせる。	①日常生活や産業の中で果たしている材料の役割	K:材料の役割を考え、資源保護と有効利用に関心を示している。 S:製作品の使用方法に工夫をし、活用している。
		4. 材料の利用	18. 資源としての材料を考えさせる。	②資源保護や節約・リサイクルの育成	C:日常生活や産業の中で、材料の果たす役割を理解し、説明できる。
2	時間				
3	時間				